

城東小学校 スローガン「元気いっぱい・笑顔いっぱい・夢いっぱい」

学校だより

⑦号

同志小
とっしゅわあ

令和2年9月7日
校長：金城光明



1学期後半スタート

本来なら8/11(火)から1学期後半開始の予定でしたが、コロナの影響でまともや臨時休業になりました。保護者の皆様には、急な連絡で大変驚かれたことと思います。

また、臨時休業中の児童の受け入れに関しても、コロナ感染拡大防止のための校舎内の消毒等の準備が遅れ、受け入れも1日遅れてしまい大変申し訳ありませんでした。

4月の臨時休業と違い、今回は、県の警戒レベル第4段階「感染蔓延期」とコロナの感染リスクがかなり高くなっている状況です。いつ、また、臨時休業があるかもしれません。日頃から家庭でのコロナ対策も行っていただきますようよろしくお願い致します。

学校としても毎日の消毒等を行い、コロナ対策を行っています。8/11(火)からは、スクール・サポート・スタッフ(SSS)も配置されています。(コロナ感染症予防対策を中心とした教員の業務サポートを行う)

定期的にHP・安心メール等で情報を発信していきます。保護者の皆様も定期的にHP・安心メールの確認をお願いします。また、登録・更新されていない方は、早めの登録・更新をお願いします。



社説

コロナと学校

児童／教員支える体制を

【沖縄タイムスより】

県内で相次いで、小学生2人の新型コロナウイルス感染が確認された。学校現場や保護者の間で緊張が高まっているが、感染予防徹底とともに、偏見や差別を生まないよう、冷静な対応が求められる。

感染が確認されたのは読谷村在住で村立学校に通う小学生と、那覇市在住で沖縄本島の私立学校に通う小学生だ。それぞれの学校は20日、21日から臨時休校し、消毒などを行う。

読谷村の石嶺傳實村長は20日、「二次感染、三次感染を予防するため」とし小学生が村在住だと発表。「感染者やその関係者、学校等に対する誹謗(ひぼう)・中傷は絶対に許されるものではない」と強く訴えた。

日本赤十字社はウェブなどで、コロナ感染症は三つの顔「病気」「不安」「差別」を持つと説明する。病気が不安を呼び、不安が差別を生み、差別される恐怖が受診をためらわせ、結果的に病気の拡散を招くと警鐘を鳴らす。

コロナ感染症は誰もが感染する可能性がある病気だ。感染した子に責任はない。感染者を特定してバッシングするようなことがあってはならない。

子どもは大人の話をよく聞いている。偏見や差別の種を植え付けないよう発言に気を付けなければならない。

多数の子どもたちが集団生活を送る学校は3密(密閉、密集、密接)になりやすい。

誰もが「自分ごと」と捉えることが感染予防、差別防止につながる。

各学校は、ソーシャルディスタンス(人と人の距離)の確保、マスク着用、アルコール消毒など、コロナに対応した「新しい生活様式」を懸命に実践している。

☆コロナ感染者がどんどん増えています。上記のことも実際、色々な学校・職場等で起きています。家庭でも是非、このことを話題にあげて子ども達に話して下さい。

現在の状況では、**誰がコロナに感染してもおかしくありません。**コロナに感染したくて感染する人はだれもいません。これからも学校と家庭が連携してこの状況を乗り越えて行きましょう！

.

